

避難訓練講話

- ・『火災』については、特に避難経路を確認しておくことがとても大切です。5月になれば『修学旅行』や『自然体験学習』などの泊行事に出かけることになりますが、火災等の災害に備えて、『避難経路』を確認しておく必要があります。
- ・いつも生活している場所(家庭や学校)であっても、一時的にしかいない場所(泊行事やお出かけ時)であっても、おそろかになりがちですが、その時々に確認しておくことが結果的に自身の命を守ることにつながります。
- ・では、「火災の訓練では何故ハンカチで口と鼻を覆うのか？」これは、有毒なガス(一酸化炭素)を吸わないようにするためです。火災の逃げ遅れによる死因の多くは一酸化炭素中毒だということです。
- ・では、「廊下や教室の窓・ドアを閉める理由は分かりますか？」火は酸素があるから燃えるのですが、窓や扉を開けっぱなしでいると常に新鮮な空気(つまり酸素)が入ってくる状態になるので、さらに燃え広がってしまうことになります(延焼拡大防止のため)。
- ・学校には防火扉(防火戸)が設置されていますが、火災発生時には、熱や煙を感じて自動的に閉まるようになっています。防火扉が正常に働く状態にあるか(物が置かれていたり、故障していたり)の点検が、毎年消防署によって行われています(消防点検)。
- ・しかし、地震では建物自体が歪んでしまい扉や窓が開かなくなってしまい避難の経路がふさがれてしまうことが考えられるので、まずは、避難経路を確保するという意味で基本的に扉や窓はあけておくということになっています。
- ・私は、災害時に最も大切なことは、どれだけ多くの人が冷静に正しく判断し、動くことができるかだと思っています。
- ・例えば、皆さんが学校にいる時間帯に、『南海トラフ巨大地震』が発生し、避難しなければならない状況が起った時に、怖くて動けない人がいたり、ケガをしている人がいたり、泣き叫んでパニックに陥っている友だちがいるかもしれません。
- ・そのような中でどれだけの人が、冷静になって先生方の指示や放送での誘導を聞けるのかがとても大切になってきます。そのためには、『防災』や『減災』の知識を身につけて、訓練等で体験しておくことはとても重要なことです。